



# 平成25年度 大阪新美術館建設準備室 連携事業報告書



大阪の中之島に数年後、新しい美術館が誕生します。

新美術館は、すぐれた近・現代美術のコレクションを活かした展覧活動を行うだけではなく、アートをめぐる新しい活動を推進することで、アートを介して人・もの・情報が行き交う拠点となることをめざしています。

新美術館建設準備室は、美術館の開館に先駆けて、平成25年度を連携事業を考えるスタート地点とし、「美術館の外とつながる」新たな事業を実施しました。それは、次の2つの視点に基づいています。

## 1. 美術館から外へ

美術館（学芸員）が、館内に留まらず、他の施設や地域に出て、そこにある資源（人やもの、歴史、産業など）とアートをむすびつけ、新たな活動を展開すること。

## 2. 外から美術館へ

美術館のもつ資源（作品や人など）の新たな活用方法を、美術館の外の多様な人が発見し、実践することで、アートの楽しみを広げること。

この小冊子では、平成25年度の連携事業の実施成果を、学校、図書館、市民、こども、地域という5つのテーマに沿ってご紹介します。

様々に試行しながら実施した本年の成果を踏まえ、平成26年度以降は、さらに多くの方々と連携し多彩な事業を展開していきたいと考えています。本冊子を通じて、新美術館建設準備室の連携事業にご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。

最後になりましたが、参加者のみなさまや、ともに事業を企画・実施いただきました関係先のみなさまに心よりお礼申し上げます。

大阪新美術館建設準備室

## 学校教員対象ワークショップ アーティストに学ぶ・素材と発想

小中高等学校の教員を対象としたワークショップ。近年、美術・図工のカリキュラムに取り入れられつつある現代美術の多様な表現にじかに触れるため、現在活躍中のアーティストを講師に迎え、作品を制作しながら、現代美術の持つ柔軟な発想や素材の扱い方を体感した。

### プログラム① 意外と簡単！ 抽象画を描いてみよう

2013年7月31日(水) 大阪市立木津中学校 会議室  
8月 5日(月) 大阪市立福小学校 多目的室 ※同内容で2回実施  
講 師: 中島麦(美術家)  
参加者: のべ57名

モネや佐伯祐三など、名画の輪郭線と特徴的な色を参考にしながら、カラフルな抽象絵画を一人で何点も制作した。



### プログラム② 身近な素材を使って一カセットプラント・ワークショップ

2013年8月6日(火) 大阪市立御幸森小学校 多目的室  
講 師: 山口啓介(美術家)  
参加者: 34名

カセットケースに植物の花や葉などを入れ、整然と窓ガラスに貼りつけることで、会場の窓を「植物によるステンドグラス」に変貌させた。



## 展覧会鑑賞授業のモデルプログラムの作成

小学校教員・大阪市立美術館と協働で、展覧会コンセプトを参照しながら、小学生向けのモデルとなる鑑賞プログラム「マイコレクション！～お気に入りの作品を見つけよう～」を作り、館内で小学4年生の授業を実施。

展 覧 会: 特別展「再発見！大阪の至宝  
—コレクターたちが愛したたからものー」(大阪市立美術館)  
授業(来館)日: 2013年11月15日(金)  
参加児童数: 大阪教育大学附属天王寺小学校第4学年3クラス 116名  
指導教諭 狩谷潤也



## 成果と課題

ワークショップは、図工を専門としない小学校教員も含め多くの参加があり、「今までにない作品、視点に刺激を受けた」など好評を得た。授業や文化祭で実践した教員もあり、「パートナーとしての美術館」という認識を広めるひとつの一歩となってきた。今後、制作内容や連携方法などについて新たな試みを加えながら継続していく。鑑賞授業については、他校の授業来館においてワークシートが参考にされるなど、モデルケースとしての感觸を得られた。今回は展覧会の内容に即して個人鑑賞中心のプログラムとしたが、今後は対話型鑑賞などの手法も取り入れていきたい。

# 図書館 Libraries × 新美

人が集まる場所として図書館を活用すること。美術館だけではなく、地域の中に新しい「アートの場」を創出すること

## 連続講座 アートな大阪①発見 共催：大阪市立図書館

「ユニークな個性を持つ近現代の大阪のアート」というテーマで、新美術館建設準備室学芸員がそれぞれの担当分野に関する講座を実施。全6回の連続講座を、8か所の地域図書館および中央図書館で開催した。



第1回	8月 4日	阿倍野図書館	【主任学芸員】小川 知子	大阪の日本画 — 1910 ~ 30 年代
第2回	9月 21日	天王寺図書館	【学芸員】高柳 有紀子	大阪を描く — 佐伯祐三と国枝金三
第3回 **	10月 14日	住吉図書館	【主任学芸員】植木 啓子	商都大阪のものづくりとデザイン
	10月 19日	旭図書館		
第4回 **	11月 17日	港図書館	【学芸員】清原 佐知子	変わりゆく風景と風景画 — 近代の大阪を中心に
	11月 17日	東成図書館		
第5回	12月 8日	中央図書館	【研究主幹】菅谷 富夫	大阪の前衛写真 — 1920 ~ 30 年代
第6回 **	12月 1日	西淀川図書館	【学芸員】三井 知行	現在の大坂とアート — 「地域でがんばる美術」とは?
	12月 14日	浪速図書館		

※は同内容の講座を2箇所で実施。

## アートトーク

少人数による参加型のトーク。学芸員が作品や美術館に関する専門的な解説をする一方、参加者が学芸員に直接質問したり、意見を述べたりして、情報を交換し、アートへの理解を深める機会を提供した。



## ① 学芸員と《ミス・ブランチ》(倉俣史朗の椅子)を語ろう

2013年12月8日(日) 中央図書館  
講 師: 菅谷 富夫(大阪新美術館建設準備室 研究主幹)  
参加者: 8名



## ② 学芸員と話そう 美術のあれこれ

2014年2月14日(金) 住吉図書館  
講 師: 小川 知子(大阪新美術館建設準備室 主任学芸員)  
参加者: 7名

## 成果と課題

昨年より実施している図書館での連続講座に加え、参加者が主役となり、少人数型で意見を交わすアートトークを2種類実施。いずれも学芸員が一方的に伝えるのではなく、参加者自身もテーマに沿って発言するという新たな試みである。ただ情報を得るだけでなく、様々な人が想いを言葉にして伝えあうことで、興味や理解がより深まることが実感された。一方、講座については、企画意図とは異なり各地域の参加者が限定的であった。内容について、テーマ設定の段階から各図書館とより深く連携し、その地域で実施する意義のある内容とするなど、さらに工夫ていきたい。

# 市民 People × 新美

「見る側」から「作る側」へ — “展覧会を作る”というアートの新たな楽しみ方を通じて、より積極的に、より深く美術館と関わる市民を増やすこと

## 市民キュレーターワークショップ 共催：大阪府立江之子島文化芸術創造センター

公募による6名の市民キュレーターが、大阪府20世紀美術コレクションを用いて展覧会を開催した。7,800点におよぶコレクションからコンセプトに従ってそれぞれ15点前後の作品を選定、章パネルの執筆や作品配置など、空間構成・演出も市民キュレーター自身が行った。作品や作者を詳しく紹介するというよりは、作品を通して参加者それぞれの世界観が表現された、ユニークで個性的な展覧会となった。



## ワークショップ内容

- オリエンテーション(10月12日)
- コンセプト作り、作品選定
- 中間発表(11月3日)
- 展覧会内容・出品作品・タイトルの決定、パネル原稿の作成
- 作品展示作業(12月1日, 2日)
- 「市民キュレーターによるミニ展覧会」の開催
- 作品撤去作業、振り返り(12月15日)



## 市民キュレーターによるミニ展覧会

会期: 2013年12月3日(火)~12月14日(土)  
会場: 大阪府立江之子島文化芸術創造センター ルーム1  
ギャラリートーク: 12月7日(土)

- 展示会タイトル  
「解放 - 新しい自分へ -」  
企画: 池口 登美子
- 「ある日どこかで」  
企画: 神尾 知宏
- 「顔・貌・かお - コミュニケーションの原点 -」  
企画: 鳥越 政宏
- 「癒し空間 ~アートを楽しむ~」  
企画: 原 美希
- 「ツキとスキ」  
企画: 堀 寿恵
- 「アートが生まれる瞬間 ~探す・見つける・包まれる~」  
企画: 四谷 明人



## 成果と課題

今年度の市民キュレーターは、展覧会という機会を活かして“自己表現”を試みる参加者が多く、企画意図を作品の集積という具体的な形にするまで、学芸員と相談をしながら内容や出品作品の練り直しが何度も行われた。試行錯誤の結果できあがった展覧会はいずれも、通常の美術展には見られない作品の組み合わせ、展示方法など、新鮮な発見にあふれたものとなった。章パネル・解説パネルにも企画者の個性が強く表れた。課題には、展覧会への来館者が少ないことがある。広報の工夫、会期中のイベントの開催など、この試みを広く知ってもらうための仕掛けが必要である。

# 子ども Children × 新美 ねい

子どもがアートに出会う創造的現場として文化施設を積極的に活用すること。〈子どもとアート〉に興味関心のある大人の情報交換・交流の拠点を創出すること

## アートフォーラム 〈子どもとアート〉の現場を考える

2014年2月15日(土), 16日(日)  
共催・会場: 大阪府立江之子島文化芸術創造センター  
企画: 特定非営利活動法人 cobon

子どもを対象とするワークショップと大人を対象としたトーク&ディスカッションの2部で構成。ワークショップでは、子どもたちが大阪府20世紀美術コレクションを使って「展覧会作り」を体験。本物の美術作品がもつ豊かな表現力に触れ、自分たちの感性や考えを作品を使って自由に表現することを学んだ。大人対象のアートフォーラムでは、地域におけるアートプログラム作りを事例報告を通じて学ぶとともに、〈子どもとアート〉のために参加者自身の立場でできることについて、全員で話し合った。



## 子ども対象 ワークショップ「みんなで美術館をつくってみよう」(15日)

参加者: 4名(小学校5, 6年生)  
内容 ①学芸員の仕事を学ぶ(学芸員による説明)  
②作品の見方を学ぶ(本物の作品を使って、自分なりの見方を学ぶ)  
③展覧会作り(コンセプトを決め、作品4点を選定。  
作品配置、高さや照明の決定)  
④発表・鑑賞



## 大人対象 トーク&ディスカッション(16日)

参加者: 26名  
①ワークショップ報告  
②事例報告  
「他都市における〈子どもとアート〉の取り組み」  
中西麻友(特定非営利活動法人 芸術家と子どもたち)  
「アーティストから見た〈子どもとアート〉作品の作り方・進め方」  
井上信太(美術家)  
③ディスカッション  
「子どものためにアートができること~  
大阪新美術館と一緒に考えよう」(参加者全員によるワールドカフェ)



## 成果と課題

子ども対象ワークショップは、美術作品や学芸員という専門家を有する文化施設ならではの内容とするべく、NPOと連携し企画・実施したものである。特に本物の美術作品のもつ力は大きく、子どもたちの自由な発想や創造力を引き出すことができた。また、この企画の実施においては、一人一人の子どもをフォローするファシリテーターの存在が重要であることが再確認された。大人向けのトーク&ディスカッションでは参加者の意識が高く、ワールドカフェでも熱心な議論が展開された。〈子どもとアート〉に関わる様々な分野で活躍する人々が、集まり、情報交換し、刺激を与えあう場が求められていることが認識できた。今後も継続し発展させることが必要である。

# 地域 Communities × 新美 ねい

アートを“日常”に — 地域に密着した活動を、その地域を越えて広くアピールすること。地域の資源にアートという光を当てて新たな魅力を発掘し、ワークショップなどを通して多くの人に伝えること

## トークイベント 10年後の大阪 ~ “地域×アート”の未来を描く

2014年3月7日(金)  
共 催: 大阪市西成区役所、ブレーカープロジェクト実行委員会  
会 場: 大阪市西成区役所 会議室  
参 加 者: 54名

講演とディスカッションの2部で構成。地域型アートプロジェクトが全国各地で展開されている現在、地域にアートが関わる意味や問題点を考え直し、大阪の未来においてどのようなアート活動が展開されるべきか、様々な立場のパネラーによるディスカッションを行った。



### 第1部 講 演

- 「なぜ地域の創造性が求められるのか?」  
芹沢高志(P3 art and environment 統括ディレクター)
- 「地域に密着したアートプロジェクトの実践」  
雨森 信(ブレーカープロジェクト ディレクター)

### 第2部 ディスカッション

パネラー: 芹沢高志  
雨森 信  
西尾美也(美術家)  
おかげんた(タレント・アート愛好家)  
柴生謙一(大阪市西成区役所 総合企画担当課長)  
司 会: 菅谷富夫(大阪新美術館建設準備室 研究主幹)

## キッズの〈はいざい〉ワークショップ ~ 帽子の型紙をつかっておもしろい立体絵をつくろう! (地域×新美×子ども プロジェクト)

2014年3月29日(土)  
共 催: 大阪市東成区役所  
会 場: 大阪市東成区役所 1階 ふれ愛パンジー  
講 師: マスダマキコ(造形作家)  
対 象: 大阪市内在住の小学生と保護者(定員30名)

モノづくりのまちとして知られる東成区。今回は、東成区内の帽子工場から出る廃材(型紙用の厚紙、紙管など)を使って、レリーフ状のオブジェを制作した。通常は廃棄されるものをアートの素材として活かすことで、東成区のモノづくり産業の魅力を引き出すとともに、子どもたちが直接素材に触れ、アートを身近に感じる機会を提供した。



## 成果と課題

トークイベントには、市外から多くの参加者が集まり、このテーマについての関心の高さをうかがわせた。新美術館が関わることにより、市内で展開されている地域に根差した活動を、より広域へ発信したり、大きな概念でどうえり直したりすることの意義が確認できた。ワークショップは、企画の段階から東成区役所と連携し、双方の目的を確認しながら内容を作りあげたものである。この手法は他の地域にも応用可能であり、一つずつ地域資源を発掘し、地域のニーズに沿ったワークショップを企画・実施することで、アートをより日常に近い場所で展開していきたい。



大阪新美術館建設準備室特別ウェブサイト  
**アートリップミュージアム**

「美術の世界を旅しよう」をコンセプトに、  
コレクションのハイライト作品をいろんな角度から紹介!  
<http://www.city.osaka.lg.jp/contents/wdu120/artrip/>

平成25年度  
**大阪新美術館建設準備室 連携事業報告書**

編集・発行 大阪新美術館建設準備室  
〒553-0005 大阪市福島区野田1-1-86-8階  
大阪市経済戦略局文化部内  
TEL: 06-6469-5189 FAX: 06-6469-3897  
発行日 2014年3月31日  
印 刷 丸山印刷株式会社